

# 川崎市北西部(多摩区域、麻生区域)の地域的特色

神奈川県立橋本高等学校教諭 安 田 直 樹

## 1. は じ め に

川崎市は、神奈川県の一部に位置し、東京都と横浜市にはさまれた面積 142.73  $\text{km}^2$ 、人口144 万 5494人（1989年初現在）の政令指定都市である（図1）。

市の南東地域は、京浜工業地帯の中核をなし日本鋼管、東亜石油、第一セメントなどの大規模な工場が臨海部に立地し、川崎市＝工業都市＝公害の町というイメージを定着させた。

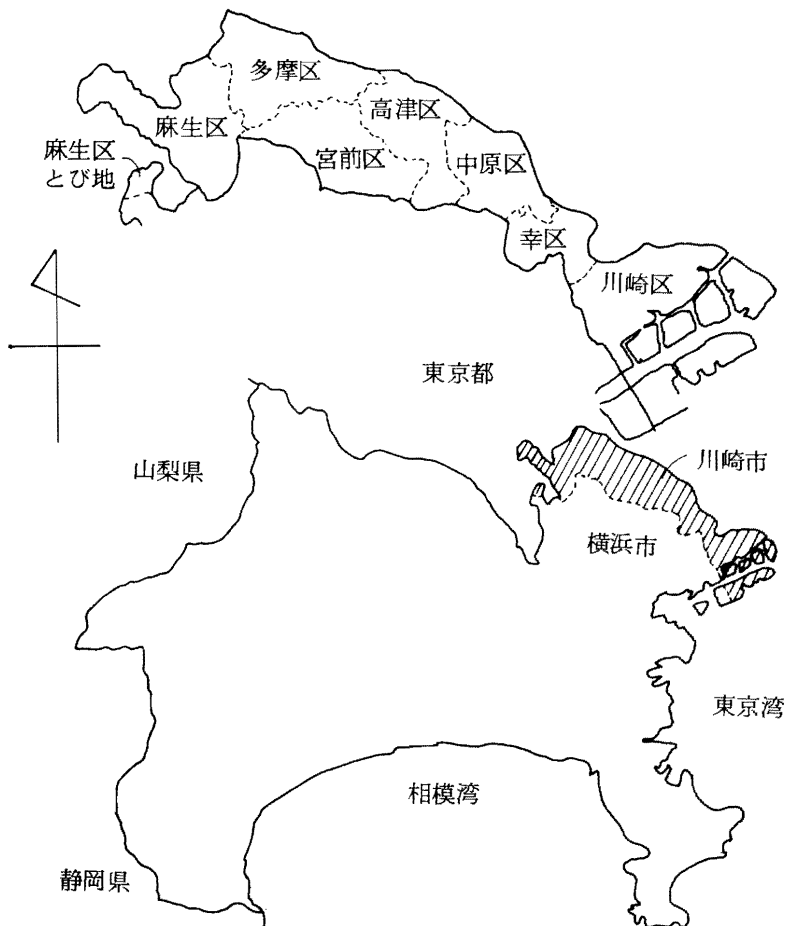


図1. 川崎市の位置

今回、川崎市の中で最も緑が多く工業とは緑の薄い市の北西部（多摩区域、麻生区域）を対象に全国的に定着してきた川崎市の悪いイメージを多少なりとも変えたいと思い市北西部の地域的特色を取りあげてみた。今回の発表により川崎市の悪いイメージを少しでも変えていただけたら幸である。

## 2. 研究地域の概略

川崎市は、1925（大正14）年に川崎町、御幸村、大師町が合併し市制が施行された（現在の川崎区、幸区域のほとんど）。以後、周辺の町村を吸収合併し、1939（昭和14）年に柿生村、岡上村（現在の麻生区域のほとんど）の編入によりほぼ現在の市域ができあがった。その後は、埋立て地の拡大にともない市域は拡大した。

多摩、麻生区域は、多摩丘陵の南東の端に位置し丘陵をきざむ河川や谷ぞいに古くからの集落があっただけで開発の手が入るまでは静かな山間の農村地帯で自然の宝庫であった。多摩川沿いでは稲作や梨・桃の栽培が、丘陵地では禅寺丸柿（甘柿の一種で王禅寺に原木がある）や栗の栽培が行われてきた。地域のほぼ中央を横切る津久井街道は江戸時代末期に八王子や津久井や愛甲の絹を江戸に運ぶ街道として成立し、この地域は比較的商品流通の進んでいた地域であった。

1926（大正15）年になって小田急電鉄が向丘地区に遊園地を開園、1927（昭和2）年には小田急線と南武鉄道（現在のJR南武線）が開通し、両線の接点である登戸地区は宅地化が少しずつ進んだ。しかし、小田急線沿線の生田、柿生地区は農村地帯としての姿を崩さなかった。昭和30年代になるまでこの地区は、川崎の緑地地域として開発の手がほとんど入らなかったのである。

## 3. 地域の宅地化の進展と人口増加

地域の大規模な宅地開発は1958（昭和33）年日本住宅公団による生田地区での区画整理事業によって出来上がった百合丘団地造成が最初のものであった。以後、丘陵地をきりきざむ形で大規模な宅地開発が次々と行われてきている。

市の人口は臨海地域を中心とした工業の発展並びに東京のベッドタウンとしての宅地開発にともない高度経済成長期から急激に増加した。1972（昭和47）年には市の人口は100万人にせまり川崎市は政令指定都市となった。そして、川崎区、幸区、中原区、高津区、多摩区の5区が誕生した。翌年、人口が100万人を突破してからも高津区、多摩区を中心に人口増加が続き1982（昭和57）年、高津区から宮前区が、多摩区から麻生区がそれぞれ区分し現在の7区になった（図2）。

市全体の人口増加は昭和40年代の後半から緩やかになったが、研究地域内の人口増加は依然多い。特に、都心部で急激に地価が上昇した昭和60年代初頭は市内の田園都市線沿線と小田急線沿線は都心部からの流入人口を中心に人口増加がみられた。

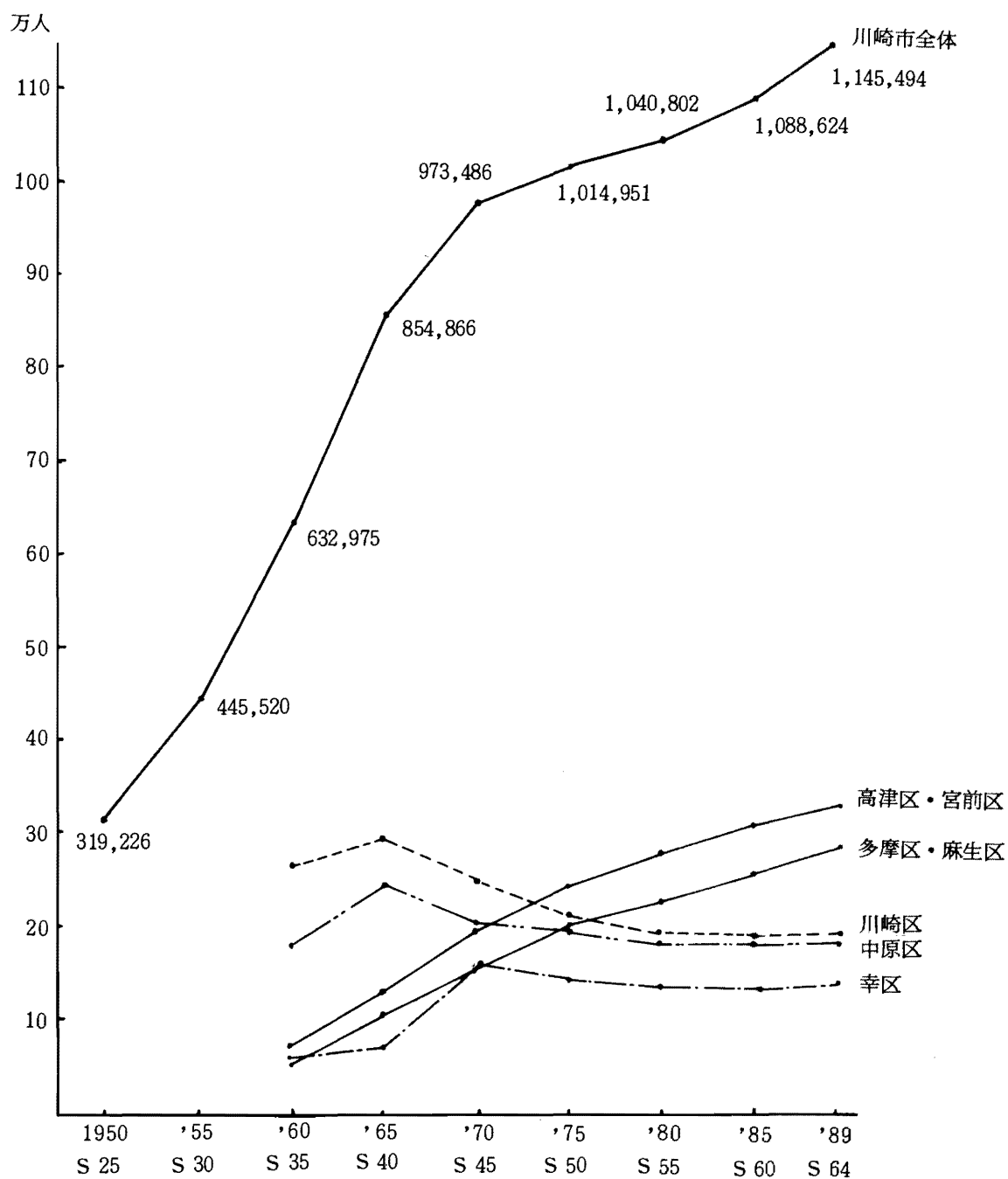
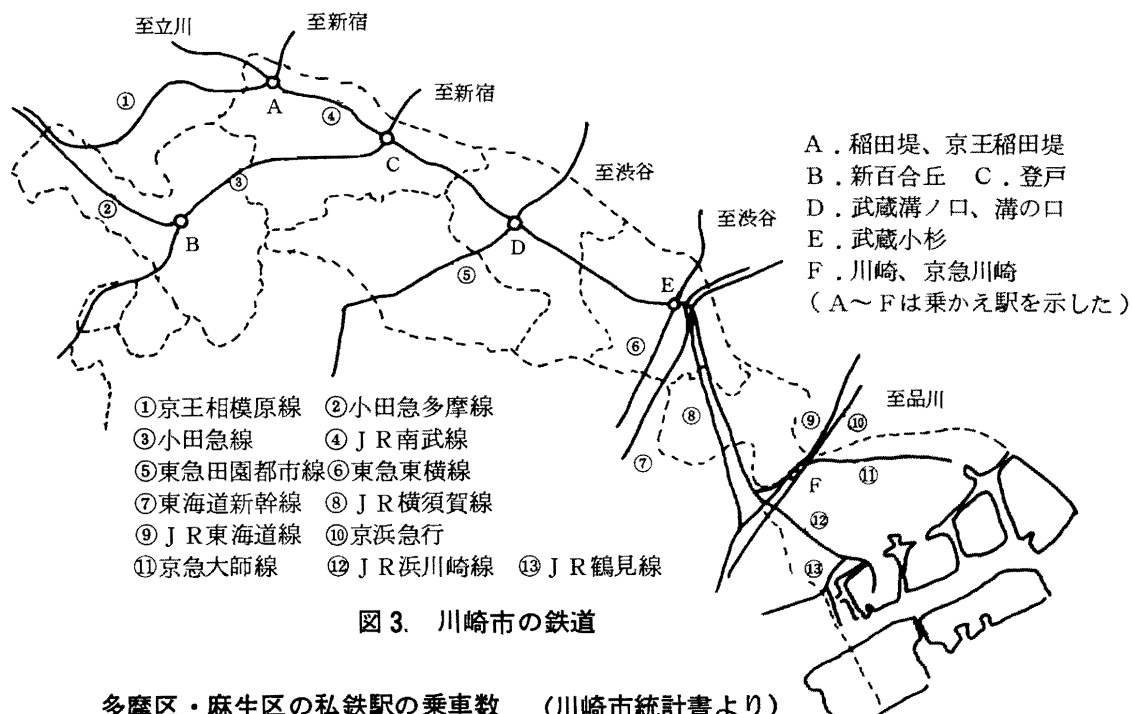


図2. 川崎市の人口推移

(各年初現在)

区 別	面 積 (平方 キロ)	世 帯 数	人 口			前 年 増 加 人 口				人口密度 (1 平方 キロ当り)
			総 数	男	女	実 数			増加率 (%)	
						総 数	自然動態	社会動態		
昭和 60 年	142.63	402 938	1 079 701	564 818	514 883	11 829	10 156	1 673	1.11	7 570
川 崎 区	38.53	73 412	194 112	102 647	91 465	△ 1 602	959	△ 2 561	△0.82	5 038
幸 区	10.09	49 576	135 928	70 209	65 719	82	1 011	△ 929	0.06	13 472
中 原 区	14.81	76 444	183 426	97 323	86 103	△ 124	1 938	△ 2 062	△0.07	12 385
高 津 区	17.10	57 638	152 136	80 141	71 995	3 189	1 665	1 524	2.14	8 897
宮 前 区	18.60	51 826	157 201	80 009	77 192	4 786	1 883	2 903	3.14	8 452
多 摩 区	20.39	58 494	151 052	80 733	70 319	2 351	1 606	745	1.58	7 408
麻 生 区	23.11	35 548	105 846	53 756	52 090	3 147	1 094	2 053	3.06	4 580
昭和 61 年	142.63	404 745	1 090 812	569 910	520 902	14 793	9 526	5 267	1.03	7 648
川 崎 区	38.53	72 304	194 070	102 372	91 698	444	972	△ 528	△0.02	5 037
幸 区	10.09	49 584	137 211	70 863	66 348	1 200	987	213	0.94	13 599
中 原 区	14.81	76 188	182 965	97 036	85 929	618	1 810	△ 1 192	△0.25	12 354
高 津 区	17.10	57 842	152 739	80 465	72 274	1 129	1 486	△ 357	0.40	8 932
宮 前 区	18.60	53 174	161 564	82 334	79 230	4 049	1 944	2 105	2.78	8 686
多 摩 区	20.39	59 164	153 012	81 422	71 590	3 400	1 392	2 008	1.30	7 504
麻 生 区	23.11	36 489	109 251	55 418	53 833	3 953	935	3 018	3.22	4 727
昭和 62 年	142.63	416 524	1 109 538	580 218	529 320	18 726	9 250	9 476	1.72	7 779
川 崎 区	38.53	73 437	194 614	102 834	91 780	544	755	△ 211	0.28	5 051
幸 区	10.09	50 386	138 247	71 411	66 836	1 036	941	95	0.76	13 701
中 原 区	14.81	77 964	184 217	98 093	86 124	1 252	1 694	△ 442	0.68	12 439
高 津 区	17.10	59 606	155 507	81 860	73 647	2 768	1 438	1 330	1.81	9 094
宮 前 区	18.60	54 956	165 292	84 242	81 050	3 728	1 871	1 857	2.31	8 887
多 摩 区	20.39	61 564	157 593	83 932	73 661	4 581	1 572	3 009	2.99	7 729
麻 生 区	23.11	38 611	114 068	57 846	56 222	4 817	979	3 838	4.41	4 936
昭和 63 年	142.63	429 216	1 129 343	591 845	537 498	19 805	9 246	10 559	1.78	7 918
川 崎 区	38.53	74 412	195 099	103 031	92 068	485	801	△ 316	0.25	5 064
幸 区	10.09	51 913	141 181	73 143	68 038	2 934	965	1 969	2.12	13 992
中 原 区	14.81	78 748	184 293	98 449	85 844	76	1 640	△ 1 564	0.04	12 444
高 津 区	17.10	61 552	158 537	83 426	75 111	3 030	1 448	1 582	1.95	9 271
宮 前 区	18.60	57 025	168 564	86 201	82 363	3 272	1 779	1 493	1.98	9 063
多 摩 区	20.39	65 039	163 612	87 559	76 053	6 019	1 636	4 383	3.82	8 024
麻 生 区	23.11	40 527	118 057	60 036	58 021	3 989	977	3 012	3.50	5 108
昭和 64 年	142.73	440 422	1 145 494	601 416	544 078	16 151	8 860	7 291	1.43	8 026
川 崎 区	38.63	76 227	196 702	103 987	92 715	1 603	802	801	0.82	5 092
幸 区	10.09	52 969	142 775	74 072	68 703	1 594	817	777	1.13	14 150
中 原 区	14.81	79 643	184 540	98 940	85 600	247	1 462	△ 1 215	0.13	12 460
高 津 区	17.10	63 023	160 490	84 646	75 850	1 953	1 394	559	1.23	9 385
宮 前 区	18.60	59 030	171 833	88 048	83 785	3 269	1 791	1 478	1.94	9 238
多 摩 区	20.39	67 650	168 431	90 240	78 191	4 819	1 609	3 210	2.95	8 260
麻 生 区	23.11	41 880	120 723	61 489	59 234	2 666	985	1 681	2.26	5 224

資料：総務局総務部統計課



多摩区・麻生区の私鉄駅の乗車数 (川崎市統計書より)

種 別	昭和58年	昭和59年	昭和60年	昭和61年	昭和62年
小田急 登戸 { 定期 本 線 定期外	39 160 15 486	38 713 15 699	38 655 15 934	39 344 16 798	40 603 17 600
向丘遊園 { 定期 定期外	21 180 11 101	21 190 10 663	21 137 10 518	21 554 10 829	22 417 11 585
生 田 { 定期 定期外	13 184 5 193	14 152 5 431	14 092 5 563	14 563 5 719	15 163 6 027
読売ランド前 { 定期 定期外	10 095 4 418	10 429 4 543	10 469 4 621	10 879 4 849	11 216 5 058
百合ヶ丘 { 定期 定期外	10 898 5 849	10 693 5 743	10 633 5 678	10 806 5 926	10 503 5 800
新百合ヶ丘 { 定期 定期外	10 992 4 186	11 888 4 826	13 008 5 497	14 569 6 492	17 475 8 166
柿 生 { 定期 定期外	13 365 4 801	13 487 4 787	14 125 4 973	15 238 5 384	15 651 5 437
小田急 五月台 { 定期 多摩線 定期外	844 170	1 155 185	1 214 218	1 337 255	1 351 298
栗 平 { 定期 定期外	2 576 803	2 905 834	3 261 904	3 608 979	3 764 1 046
黒 川 { 定期 定期外	256 111	213 122	250 117	297 124	330 128
京 王 京王稲田堤 { 定期 相模原線 定期外	3 664 2 447	4 090 2 481	4 600 2 699	5 413 3 033	6 146 3 349
若葉台 { 定期 定期外	1 533 339	1 559 324	1 564 344	1 513 356	1 517 353

#### 4. 単なるベッドタウンからの脱却

研究地域は、東京都区部への通勤者が約40%、都内他地域への約7%を加え、多摩・麻生区域内の通勤行動は東京都との結びつきが強い。これは、麻生・多摩区内通勤が約30%、市内他区への通勤が約13%であることから東京のベッドタウンとしての性格がはっきりあらわれていることがわかる。通勤行動ばかりでなく、購買行動にもまた、東京との結びつきの強さがあらわれている。多摩・麻生区域内は大型の百貨店がほとんどなく、いわゆる高級デパートは一店もない。区域内の住民は、所得の高い層が多く、私鉄線を利用して新宿、渋谷へ行く人が多い。地域内の小田急線をはじめとする各鉄道の駅前は大店が立つ敷地がほとんどなく道路も狭くなっている所が多い。1974（昭和49）年、多摩ニュータウンに延びる小田急多摩線開通に合わせ新百合丘駅がつけられ、周辺の区画整理事業が行われ徐々に整備が進むにつれて、新百合丘駅周辺を川崎北西部における拠点として新都心とする構想が浮かび上がってきた。1982（昭和57）年、麻生区ができた麻生区役所、麻生市民館と駅北口前に行政の中心施設が出来上がっていった。昭和60年代になってからは特に駅周辺の整備が一段と進み銀行、大型店舗などが次々に建設されてきている。1989（平成元）年には駅南口にバスターミナルが完成し駅周辺の宅地開発とあわせ駅の利用者を増大させた。また南口には西武デパート、小田急ショッピングビルの建設がきまっており駅の発展が期待されている。

このように、地域の拠点づくりにより単なる東京のベッドタウンからの脱却が期待されている。

#### 5. 地域の今後の展望

1987年度より5年間の計画で第2次神奈川計画が実施されている。この計画で、新百合丘新都心整備、生田緑地の保全、黒川地区のマイコンシティ建設、黒川緑の里づくりなどが地域内で実施されることになった。特に、新百合丘駅周辺は郵政省のテレトピア構想とあわせ大発展が期待されている。すでに、テレトピア構想によるケーブルテレビジョンが敷設されサービスが始まっておりサービス網は新百合丘周辺を中心に広まってきている。より快適な住宅地の建設が進められているのである。

また、地域内は緑が多く残され農地も市内では一番多い地域なので緑地保全と農地空間の有効利用が他地域より進んでいる。住宅地に隣接している地域にある農家では近隣住民向けに野菜の即売を行っている所も多い。麻生区の早野地区では、春は筍、春から初夏にかけてはハウストマト、夏は露地トマトやきゅうり・なす、秋は栗・柿を即売している。多摩区域の多摩川沿いでは、観光なし園が多くあり梨のもぎ取り即売が行われている。都市化が進み、年々農地が減ってきているが大都市の中で地域のニーズに答える形で農業を行っている農家が多いようである。

21世紀に向け、より快適な都市を目指し川崎市は変ってきている。多摩・麻生区域は、より快適な住環境になりつつある。行政サイドばかりでなくいろいろな所から快適さが追求され新しい川崎のイメージをつくりだそうとしている。

## 6. お わ り に

川崎市はかつてとちがい、だんだんきれいな空を取り戻しつつあります。今回の研究対象地域である多摩・麻生区域も光化学スモッグが多く発生していた所です。工場や公害ばかりが川崎の顔でなく、より快適な都市を目指し変わってきている川崎の姿を今回の研究から多少なりともとらえて頂けましたら幸いです。川崎北西部の多摩・麻生区域は、緑多い快適な住環境を備えた所で今後もより快適さを追求し変化していくでしょう。特に、新都心建設計画に基づき変わっていく新百合丘周辺に今後も注目していきたいと思います。

### 【参考文献】

○川崎市統計書 昭和63年度版

○川崎市地区カルテ 多摩区版、麻生区版